



# 平成26年度 御駒堂遺跡 発掘調査現地説明会資料

宮城県教育庁文化財保護課 平成26年8月23日(土) 午前10時30分～

## 調査要項

遺跡名	御駒堂遺跡(おこまどういせき)
所在地	栗原市志波姫南堀口
調査原因	一般国道4号線築館バイパス建設工事に伴う本発掘調査
調査主体	宮城県教育委員会(教育長 高橋仁)
調査担当	宮城県教育庁文化財保護課
調査期間	平成26年7月7日～9月下旬(予定)
調査面積	2,940㎡ 調査対象面積 7,650㎡
調査協力	国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所 栗原市教育委員会



## はじめに

御駒堂遺跡の発掘調査は、栗原市市街地の交通混雑及び沿道環境の緩和と沿線地域の活性化等を目的とした一般国道4号線築館バイパス建設工事業に伴うもので、平成24年9月3日に開始しました。宮城県教育委員会は、国土交通省と調整を図りながら同事業にかかわる遺跡調査の早期完了を目指しており、原田遺跡・下萩沢遺跡・大天馬遺跡など6遺跡の調査を終了しています。

## 御駒堂遺跡の概要

御駒堂遺跡は、縄文時代から江戸時代の集落跡です。これまでの調査で、古墳時代後期から平安時代初期の竪穴住居跡50軒、平安時代の土器埋設遺構1基、古代の井戸跡1基のほか、江戸時代以降の掘立柱建物跡11棟などが発見されています。特に奈良時代前半(8世紀前半)は、住居のカマドや土師器と呼ばれる素焼きの土器の特徴が関東地方と共通しており、同地域の人々が東北に移住したと考えられました。関東からの移民の存在については文献上で知られていましたが、本遺跡を含む昭和50年代の発掘調査を契機として、実際に遺跡で確かめられるようになりました。

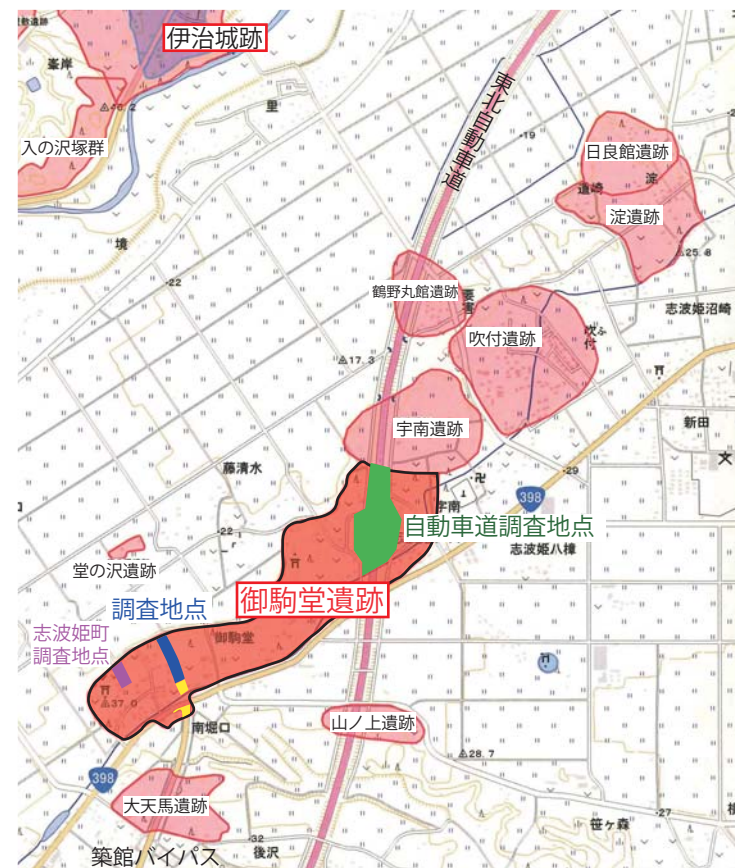


図1 周辺の遺跡と航空写真(昭和51年11月撮影)

本遺跡の北2.3kmにある伊治城は、神護景雲元年(767)に完成しました。航空写真には、発掘調査中の東北自動車道調査地点が写っています



## 発見した遺構と遺物

今年遺跡の西側を東西31m、南北168m調査しています。そこから、古墳時代～奈良時代の竪穴住居跡5軒のほか、縄文時代の陥し穴3基、江戸時代以降の掘立柱建物跡7棟・墓跡17基、近世以降とみられる土塁跡や空堀跡などを発見しました。住居跡は、一辺が3.3m～6.3mの正方形もしくは長方形で、北辺中央の壁際に煮炊きを行ったカマドがつくられています。

奈良時代前半の竪穴住居跡は3軒(SI3・6・15)で、いずれもカマドや土器(関東系土師器)の特徴が関東地方と共通しています。これまでの調査成果を併せると、移民の住居跡は28軒になり、遺跡の東側—中央—西側からまんべんなく発見されています(図5)。こうしたことから、関東地方からの移民の住居は東西1,400m、南北400mの遺跡全体につくられたと考えられます。



図2 自動車道調査地点から出土した関東系土師器(29号住居跡・35号住居跡 図録『東へ西へ』より)